

観光文化委員会

平成29年4月17日(月)広島市内において、角廣委員長、藤田副委員長、貞益副委員長ほか55名の出席のもと観光文化委員会を開催した。

当日は、議事に先立ち、広島大学大学院総合科学科教授 フンク カロリン氏から「国際観光地域としての中国地方：外国人周遊市場調査から見てきた今後の可能性」と題して主に当地方への外国人観光客の誘致方策や満足度向上方策についてご講演いただいた。

引き続き、事務局から「平成28年度の活動状況」の報告と「平成29年度の事業計画(案)」について付議し、原案どおり承認・決定された。



(右から)角廣委員長、藤田副委員長、貞益副委員長

【講演】

○演題

「国際観光地域としての中国地方：外国人周遊市場調査から見てきた今後の可能性」



○講師

広島大学大学院 総合科学科教授
フンク カロリン氏

○要旨

■はじめに

この1年間、「外国人観光客の中国地域内周遊に関する市場調査」の委員長を務めた。本日は、その調査報告も含め講演させていただく。2003年頃から、日本政府がインバウンド観光に取り組み、2年前訪日外国人観光客が急増。日本は世界で人気のある観光地に発展した。2011年まではアウトバウンド観光が主だったが、インバウンド観光が急成長した結果、2015年に訪日外国人旅行者数が出国日本人数を初めて上回った。また、それまで20位～30位くらいだった外国人旅行者数の世界ランキングでも10位台となり、観光大国として認識されるようになった。観光客は、経済成長が著しいアジアからが多い。ただ、観光客数は増えているが、観光の経済効果を見る上で重要な宿泊数はあまり増えていないことが課題。

■中国地方のインバウンド観光の特徴

関西に近い岡山、広島、鳥取までは外国人は来るが、そこから遠い島根、山口にはあまり来ない。また、1カ所の目的地に依存していることも特徴。広島は、原爆ドームと平和記念公園を訪問する欧米の観光客が多いとよく言われるが、実は宮島の方が多い。宮島のように自然と歴史があるところに欧米の観光客は多く訪れる。しかも、アメリカ、欧州、オーストラリアと、それなりに観光客のバランスが取れていることも特徴。

約2,000人の外国人旅行者にアンケートをした結果、中国地方への旅程は3つに分けられることがわかった。1つは日程がぴったりと決まっている「旅程確定型」。いわゆるパッケージツアー参加だ。2つ目は、日本に来る前に宿は押さえ、毎日の行動に余裕はあるが基本的な旅程が決まっている「宿泊のみ確定型」。3つ目は、途中で得られた情報に沿って動く「旅程自由型」。

訪問動機は、「伝統文化」や「歴史的施設」が一番多い。次に「日本の生活体験」と「自然」が多い。宮島のように、伝統、歴史さらに自然まで味わえる観光地があるのが中国地方の強みの1つ。

宿泊予約は、どの国も来日前に全て予約したというのが一番多いが、欧米の旅行者には来日してから予約するというパターンもある。予約サイトを利用しているのがほとんどで、全国の調査結果と大きく異なる。全国調査では直接宿泊施設への予約、旅行会社での予約、ネット予約がほぼ

同じ割合。すなわち、当地方に来る外国人は、リピーターで旅行会社に頼らない旅行者が多いので、中国地方の場合、旅程自由型の人たちに、いかに情報を与えるかという点がポイントだ。

宿泊施設で一番多いのは、1万から2万円のホテルか、1万円以下のホテル。広島シティホテルの稼働率は8割で常時満室に近い。このままでは観光客が増えなくなるおそれがある。

旅程は、成田、羽田からの入国が半分以上だが、全国をまわる旅程と中国地方のみという地方型に分かれる。特にアジアからの観光客は中国地方のみの旅程が増えている。例えば韓国から自転車に乗るために週末に「しまなみ」に来るような、観光よりもレジャーに近いパターンが生まれつつある。これが中国地方でインバウンドを増やすパターンの1つだ。欧州の人はまだゴールデンルート（東京—京阪神）がメイン。2度目以上の人が多いのは韓国。台湾の場合は中国地方のみが増えている。欧米の人は初訪問の人が多く、関東から中国地方へのルートをたどっている。リピーターと初訪問の違いは明確で、これからの観光戦略を考える上でそれぞれに合ったものが必要だ。

中国地方を訪れた前後の訪問地は、特に山陰の場合、山陰の中で動いている。松江に来た人は境港、または鳥取を訪問。広島や岡山は関西を訪問した延長線で訪問。岡山は四国の延長線もあるけど、広島から四国に簡単に渡れることは意識されていない。下関となると中国地方よりも九州への入り口という意識が強い。

交通手段は、香港の人はレンタカー、中国、韓国、台湾、フランスはバスで移動する人が増えている。バスは今までは情報が少なかったり、周遊パスがなかったりで利用されていなかったが、最近は周遊パスもでき、情報も増えているので、バスで移動する人は増えるだろう。

旅行に関する情報源は、インターネットが一番多い。欧米全体の旅程自由型の人たちでは、電車で読める有料ガイドブックも多い。観光案内所もよく利用する。やはり人に直接情報を聞くのが安心で、観光案内所にとりあえず聞いてみようというパターンがいまだに強い。

■中国地方における外国人観光客の周遊方策

中国地方の外国人観光客を増やすため、当地方に多く訪れている欧米の旅程自由型の観光客に当地方の穴場を発見してもらい、周遊してもらうことが考えられる。そういうトレンドの早わかりも重要。どこに人が増えたかという情報は次のブームにつながる。そういう情報発見システムは、ネットワーク化することによって生まれるもので、非常に重要だ。

また、宮島、広島は、ホテルが足りない、ロープウエーで30分以上待つなど、キャパシティが限界に近付いている。観光客の満足度を維持するために、熟した観光地でいい経験ができる混雑の管理が必要だ。

また、公共交通手段を利用して、荷物も預けて、途中で情報も得られてという、中国地方をサークルで回れる仕組みをいかに発達させるかということも今後の課題となるだろう。

（本調査の報告書は当連合会ホームページからご覧いただけます）

〔議事概要〕

I 平成28年度事業報告

II 平成29年度事業計画

1. 観光文化委員会の開催
2. 観光振興に関する事業（調査・研究）
3. 夢街道ルネサンス推進会議、中国地方風景街道協議会の活動の推進
4. 西日本広域観光周遊ルートの開発
5. 中国地域観光推進協議会への支援・連携

（担当：隅井）